

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 3 月 10 日 (2005.3.10)

【公表番号】特表 2000-506005 (P2000-506005A)

【公表日】平成 12 年 5 月 23 日 (2000.5.23)

【出願番号】特願 平 9-530180

【国際特許分類第 7 版】

C 1 2 N 15/09

A 6 1 P 29/00

A 6 1 P 43/00

A 6 1 K 38/00

C 0 7 K 5/00

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 16/28

C 1 2 P 21/02

C 1 2 Q 1/68

G 0 1 N 33/577

// A 6 1 K 31/7088

C 1 2 P 21/08

(C 1 2 P 21/02

C 1 2 R 1:91)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 31/00 6 2 9

A 6 1 K 31/00 6 4 3 E

C 0 7 K 5/00

C 0 7 K 14/705

C 0 7 K 16/28

C 1 2 P 21/02 C

C 1 2 Q 1/68 A

G 0 1 N 33/577 B

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 31/70 6 2 3

C 1 2 P 21/08

C 1 2 P 21/02

C 1 2 R 1:91

【手続補正書】

【提出日】平成 12 年 3 月 6 日 (2000.3.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成12年 3月 6日

特許庁長官 殿



1. 事件の表示

PCT/US97/01697

平成 9年 特許願 第530180号

2. 補正をする者

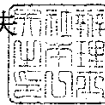
名 称 イミュネックス・コーポレーション

3. 代 理 人

住 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号 新大手町ビル206区
ユアサハラ法律特許事務所

電 話 3270-6641~6

氏 名 (8970) 弁理士 社 本 一 夫



4. 補正対象書類名

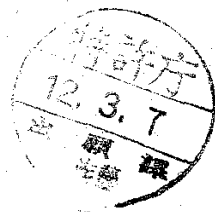
請 求 の 範 囲

5. 補正対象項目名

請 求 の 範 囲

6. 補正の内容

別紙の通り



方 式 査 審



(別紙)

請求の範囲を以下の通り補正する。

『

請求の範囲

1. ポリペプチドをコードする単離された DNA であって、前記ポリペプチドが SEQ ID NO:2 の残基-19 から 522、SEQ ID NO:2 の残基 1 から 522、SEQ ID NO:2 の残基-19 から 310、SEQ ID NO:2 の残基 1 から 310、SEQ ID NO:4 の残基-18 から 519、SEQ ID NO:4 の残基 1 から 519、SEQ ID NO:4 の残基-18 から 307、及び SEQ ID NO:4 の残基 1 から 307 からなる群から選択されるアミノ酸配列を含む、前記単離された DNA。
2. SEQ ID NO:2 のアミノ酸残基 1 から 310 を含むポリペプチドをコードする、請求項 1 の DNA。
3. SEQ ID NO:1 のヌクレオチド 1 から 1626、SEQ ID NO:1 のヌクレオチド 58 から 1626、SEQ ID NO:1 のヌクレオチド 1 から 985、SEQ ID NO:1 のヌクレオチド 58 から 985、SEQ ID NO:3 のヌクレオチド 381 から 1994、SEQ ID NO:3 のヌクレオチド 435 から 1994、SEQ ID NO:3 のヌクレオチド 381 から 1355、及び SEQ ID NO:3 のヌクレオチド 435 から 1355 からなる群から選択されるヌクレオチド配列を含む、DNA。
4. SEQ ID NO:2 の残基 1 から 522、SEQ ID NO:2 の残基 1 から 310、SEQ ID NO:4 の残基 1 から 307 及び SEQ ID NO:4 の残基 1 から 519 からなる群から選択される配列と少なくとも 80% 同一であるアミノ酸配列を含むポリペプチドであって、生物学的活性を有するポリペプチドをコードする DNA。
5. ポリペプチドをコードする DNA であって、前記ポリペプチドが、以下の
 - a) SEQ ID NO:2 の 1 から 297 及び 299 から 522 のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドは SEQ ID NO:2 の位置 298 の残基を欠いている；
 - b) SEQ ID NO:2 の 1 から 297 及び 299 から 310 のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドは SEQ ID NO:2 の位置 298 の残基を欠いている；からなる群から選択されるアミノ酸の配列を含む、前記 DNA。
6. ポリペプチドをコードする単離された DNA であって、前記 DNA が非常に厳

しい条件下で請求項3のDNAとハイブリダイズすることができるDNAの相補体であり、前記ポリペプチドがプロスタグランジン合成を阻害することができる、前記単離されたDNA。

7. SEQ ID NO:2の残基1から310の配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含むポリペプチドをコードするDNA。

8. SEQ ID NO:2のアミノ酸残基1から310を含むポリペプチドの断片をコードするDNA。

9. 請求項1ないし8のいずれか1項のDNAを含む発現ベクター。

10. ポリペプチドの発現を促進する条件下、請求項9のベクターで形質転換した宿主細胞を培養することを含む、ポリペプチドを調製する方法。

11. SEQ ID NO:2の残基-19から522、SEQ ID NO:2の残基1から522、SEQ ID NO:2の残基-19から310、SEQ ID NO:2の残基1から310、SEQ ID NO:4の残基-18から519、SEQ ID NO:4の残基1から519、SEQ ID NO:4の残基-18から307、及びSEQ ID NO:4の残基1から307からなる群から選択されるアミノ酸配列を含む、精製ポリペプチド。

12. SEQ ID NO:2の残基1から310のアミノ酸配列を含むポリペプチド。

13. SEQ ID NO:2の残基1から522及びSEQ ID NO:4の残基1から519からなる群から選択される配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含む、ポリペプチド。

14. 以下の

a) SEQ ID NO:2の1から297及び299から522のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドはSEQ ID NO:2の位置298の残基を欠いている；

b) SEQ ID NO:2の1から297及び299から310のアミノ酸、但し、前記ポリペプチドはSEQ ID NO:2の位置298の残基を欠いている；

からなる群から選択されるアミノ酸の配列を含むポリペプチド。

15. 請求項6のDNAによってコードされるポリペプチド。

16. SEQ ID NO:2の残基1から310の配列と少なくとも80%同一であるアミノ酸配列を含むポリペプチド。

17. a) SEQ ID NO:2のポリペプチドの細胞外ドメイン、及び、

b) プロスタグランジン合成を阻害することができる、前記細胞外ドメインの断片

からなる群から選択されるポリペプチド。

18. 請求項11ないし16のいずれか1項のポリペプチドに対する抗体。

19. モノクローナル抗体である、請求項18の抗体。

20. 効果的な量の請求項11ないし16のいずれか1項のポリペプチド、及び適した希釈剤あるいは担体を含む薬剤組成物。

21. 哺乳動物中のプロスタグランジン合成を阻害する方法に使用される、請求項20の薬剤組成物。

22. 炎症状態にある哺乳動物中の炎症を軽減する方法に使用される、請求項20の薬剤組成物。』